

和白干潟を守る会

2019年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2019年度のまとめ

和白干潟を守る会の環境保全活動は、32年目を迎えます。会員の皆さまのおかげで長く続けていくことができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。昨年は長年和白干潟のクリーン作戦を続けてきたことにより、「海の日記念式典」で国土交通大臣表彰を受けました。世界でプラスチック海洋ゴミが問題になっています。和白干潟を守る会でもゴミ削減を呼び掛けていきたいと思えます。11月には「海ごみ対策地域リーダー養成講座」で和白干潟のごみの発表をしました。国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）推薦子ども向け図書が「生物多様性の本箱」として103冊寄贈されました。「和白ひがた文庫」として今後広めていきたいと思えます。第31回目の和白干潟まつりは、残念ながら雨天中止になりました。30回続けて来て、初めてのことです。今年こそは楽しい和白干潟まつりを開催したいですね。

2018年10月の第13回ラムサール条約締約国会議で国内では2か所の湿地が登録されましたが、残念ながら和白干潟は登録されませんでした。今後もラムサール条約に登録されるように活動を続けていきたいと思います。ラムサール条約に登録されるためには、和白干潟が国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。まだ国指定鳥獣保護区が普通地区のままです。

「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けています。2019年1月に「楽友会15年のあゆみと和白干潟の環境保全活動」の講演会、初夏の雁ノ巣海岸観察会、秋に唐原川の清掃活動を実施しました。

活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加者が増加傾向です。日本ユネスコ協会連盟の仲立ちの企業も継続して参加されました。九州産業大学は特別講義を企画され、多彩に協力していただきました。2019年度もすばらしい活動ができたと思えます。ミヤコドリは今冬は20羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも14羽を確認しています。ツクシガモは254羽を確認しました。

今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの力で未来の人たちに渡したいと思えます。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

活動方針に基づく報告とまとめ

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

1. 和白干潟観察会

2019年4月に観察会グループミーティングを行った。観察会の案内状の送付については、次年度の最初に行うこととした。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をもらった後、観察会を実施した。

2019年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間13回で、延べ779名の参加があった。観察会の申し込みは減ってきている。

学校関係からの依頼では、保育園1回（香椎保育所）45名、小学校4回（和白小学校）494名、中学校1回（筑陽学園中学）82名、高校1回（柏陵高校）43名、合計7回、664名あった。和白小学校では、2月末に毎年まとめの発表会があり、守る会のガイドなどが参加している。その他に、センスオブネイチャー、NHK学園、ダンロップグループなど3回、延べ86名であった。また、日本自然保護協会との共催で「アリの見分け方研修会」を開催し、13名の参加があった。毎年7月に開催している「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」は、雨天中止となった。ガイドの固定化と高齢化の課題に対しては、9月の筑陽学園中学校郊外理科学習時に3名がガイド見習いをした。ガイド見習い研修については、今後も継続して行く。

年度	団体区分	実施回数	延べ人員
2019	保育園	1	45
	小学校	4	494
	中学校	1	82
	高校	1	43
	一般	6	115
	合計	13	779

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、6月30日に第22期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、10名が参加した。

和歌山大学教授の古賀庸憲氏を講師に招き、「カニの生態を学ぼう！」と題して、カニの生態、特にコメツキガニの生態について学んだ。

3. 和白干潟のクリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。

定例のクリーン作戦は、年間11回、延べ937名が参加し、1,547袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、自然観察会、臨時の清掃などに延べ510名が参加し、166袋を回収した。全体では延べ1,447名が参加し1,713袋のゴミを

回収した。この内、守る会人数は、延べ159名だった。ゴミについては、人工ゴミを分けて数えるようにした。その内訳は、人工ゴミ：213袋、アオサ：517袋、草木：794袋、不燃ごみ：23袋で、合計で1547袋だった。粗大ゴミでは、今年も自転車、タイヤ、浮き、寝具、家具類、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、企業や、城東高校、九州産業大学生の他に福岡工業大学ラグビー部の参加があり、全体の人数も昨年より多かった。アオサは昨年より少ない時期と多い時期があり、干潟の上にはほとんど無い時期が多かったが、アシの上などには多く漂着していた。総括すると、参加総人数は昨年の約125.3%、ゴミの量は約73.5%となっている。（上表参照）

年度	活動項目	回数	延べ人数 (人)	ゴミの量 (袋)
2018	クリーン作戦	12	546	1,763
	その他	10	609	567
	合計	22	1,155	2,330
2019	クリーン作戦	11	937	1,547
	その他	6	510	166
	合計	17	1,447	1,713
増加割合(%)		77.3%	125.3%	73.5%

- ・4月27日（土）のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・6月23日（日）は「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・9月28日（土）のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施。ゴミ調査には今年、九州産業大学経済学部宗像ゼミの学生や、企業からの協力があり分別が出来ている。ゴミでは依然プラスチック類のゴミが多い。

4. 第31回和白干潟まつり

11月24日（日）予定していた第31回和白干潟まつりは、雨が午前、午後70%程度予想されたため、中止とした。予定日前は晴天が続き、楽観していたが、予想外の台風崩れの低気圧による影響で前日から雨天の予報が出され、安全を第一に考えて苦渋の決断をした。開催に当たっては「あらかじめ雨天と強風の場合は中止、集会所などでの開催は実施しない」との方針で準備し、関係者、ポスター、チラシ等にも記載していたが、30年間にわたり、継続して開催してきただけに初めての中止となってしまう、関係各所にご迷惑をおかけすることとなった。当日出店を予定されていた団体、前日参加取り消しされた食品提供団体も、損害が発生していると推察され、改めて野外イベントの難しさを痛感した。ただちに、関係各所に中止の報告とお詫びの文書を送った。協賛金、カンパは費用の補填として充当させていただいた。

雨天でも、集会所と広場の2か所で開催した年もあったが、今回、初めから集会所での開催を予定しなかったのは、和白干潟を守る会が高齢化し、人手不足、体力不足から2か所での分散開催は無理と判断したことによる。今後に向けての課題として ①人手不足の対応②全体的な内容の見直し③雨天判断の中止のタイミング④今回展示できなかった写真、パネルの活用があげられる。これらは和白干潟を守る会で今後の検討が必要である。和白干潟通信には準備状況と市長からのメッセージを掲載した。

5. 和白干潟に関する学びの機会をつくる

山本代表による九州産業大学での特別講義、香椎公民館での講演等を通し、市民が身近に和白干潟の価値を知ってもらう機会を増やした。さらに、今年はプラスチックごみ問題が取り上げられる機会が増え、守る会として冊子を購入し、会員に配布するとともに、観察会の打ち合わせで、申し込み担当者にも提供し、ともに取り組む人を増やすよう働きかけた。また、11月に行われた海洋ごみ対策地域リーダー養成講座において、県内各地からの参加者に和白干潟のごみ問題の現状と取り組みについて山本代表が報告した。

2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

6. 調査

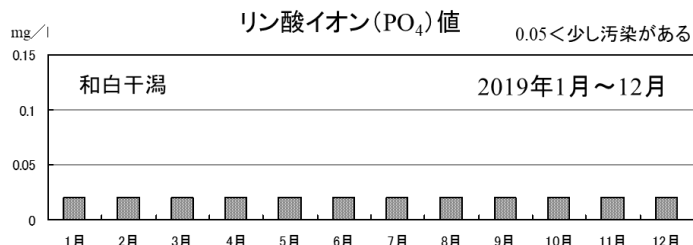
調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関しては唐原川と和白川を調査地点に加えて観測を行っている。

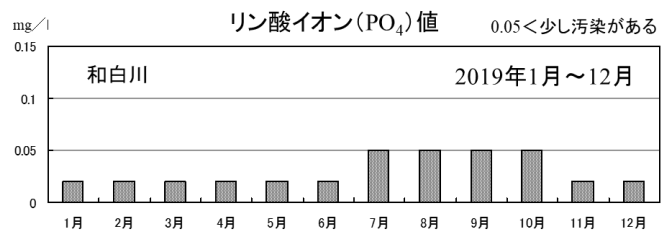
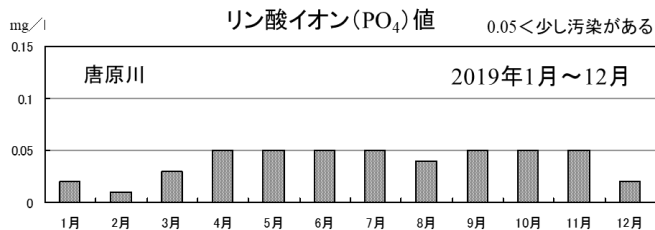
(1) 水質調査（毎月1回実施）

①リン酸イオン値（ PO_4 ）は海水中のリンの状態を示すもので0.05以下は「きれいな水」であること、0.05～0.2は「少し汚染がある」状態であることを示す。

・和白干潟では、年間を通して0.05以下であり、「きれいな水」の状態であった。

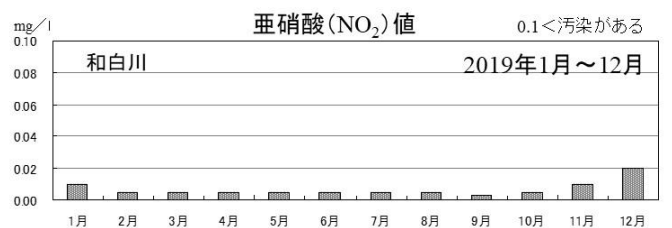
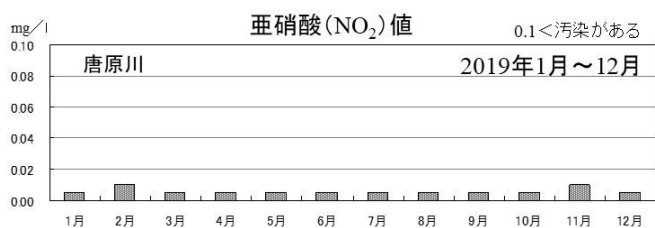
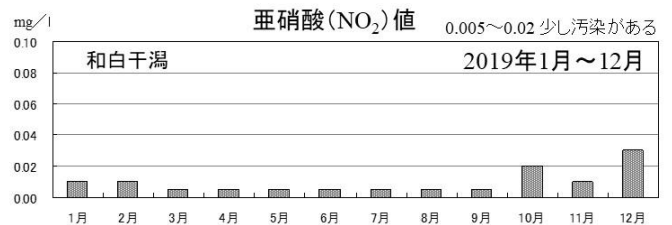
・唐原川、和白川とも年間を通して0.05以下であったが、0.05の時も多くあり、和白干潟よりは少し汚染がある状態である。





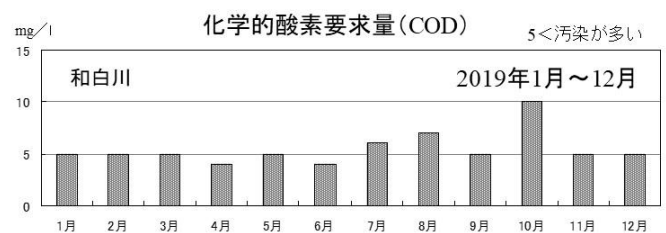
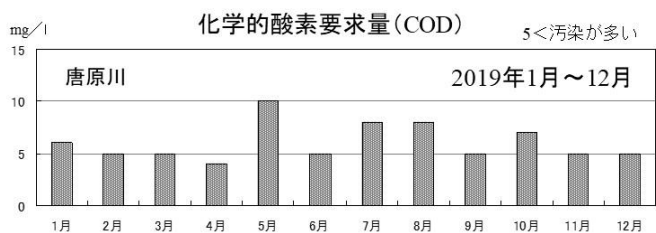
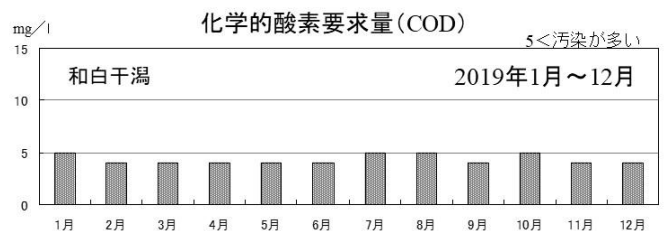
②亜硝酸値(NO₂)は海水の窒素の状態を示すもので、0.005以下は「きれいな水」、0.005～0.02は「少し汚染がある」、0.02～0.05は「汚染がある」状態を示す。

- ・和白干潟では12月を除いて年間を通して0.02以下であり水質は「少し汚染がある」状態であった。
- ・唐原川、和白川は、年間を通して0.02以下であり、「少し汚染がある」状態であった。

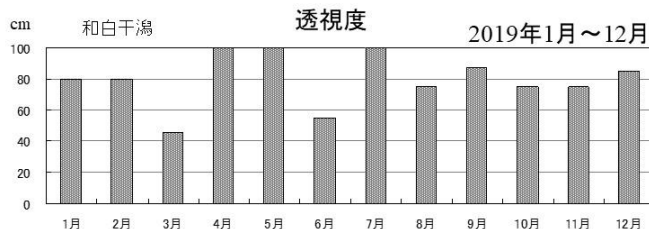


③化学的酸素要求量(COD)は水の汚れ具合を示すもので、2以下は「きれいな水」、2～5は「汚染がある」状態、5～10を「汚染が多い」としている。

- ・和白干潟では年間を通して5以下であり、5を下回る月が何回もあり、「汚染がある」状態であるが、水質は改善傾向にある。
- ・唐原川や和白川では年に何度か5を越えることがあり、和白干潟に比べると汚れが多い。和白川と唐原川を比べると唐原川の方が汚れが多い。



④透視度については、以前は通常30cm位であったが2015年度からは透視度計の100cmまで見えることがあり、透視度は改善傾向にある。2019年度も平均で70cm以上あった。



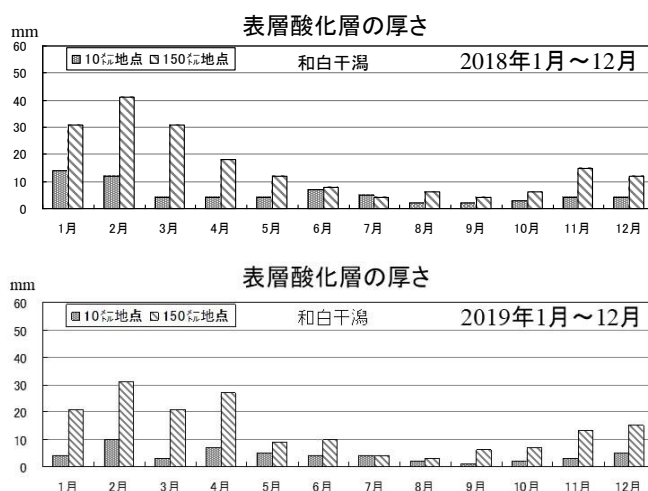
(2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、33種類のゴミが回収された。収集したゴミの中で、特に多かったのは、今、社会で問題となっているプラスチックゴミの「ペットボトル」、その次に「食品の包装や袋」だった。この調査には九州産業大学の宗像ゼミと西日本シティ銀行に協力していただいた。JEANなどと協力しての漂着ゴミの分類調査も継続して行う。調査データは干潟通信やホームページで公表していく。

(3) 砂質調査

和白天濁・海の広場前 10^{メートル}地点と 150^{メートル}沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。

右のグラフは、2018年度と2019年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが両年度とも浜辺側の表層酸化層の厚さが薄く、2019年度は、2018年度に比べて悪化している。

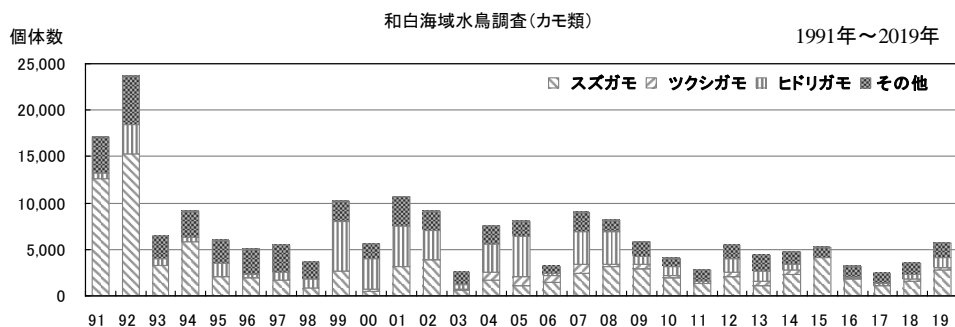


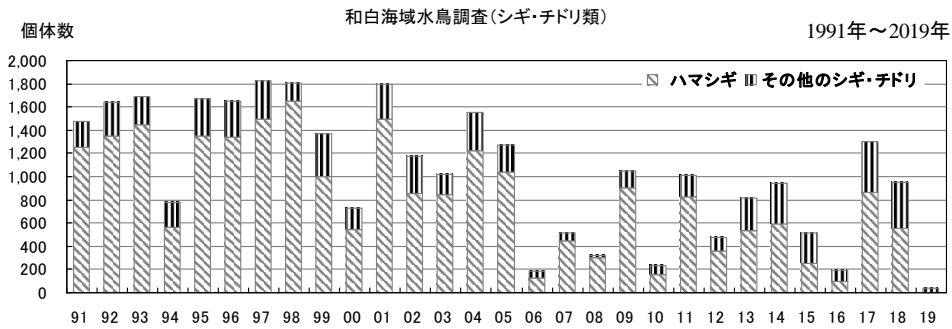
(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

① 1月 和白天濁海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部）2019年1月18日に実施。

和白天濁海域の水鳥の越冬数(和白天濁海域水鳥調査)の内、カモ類は前年の3,462羽より少し増えて**5,653羽**、最多の1992年の23,719羽と比べて約4分の1だった。シギ・チドリ類は前年の947羽より大幅に減少し**37羽**。90年代の約1,600羽と比べて約43分の1だった。冬期に越冬するハマシギなどの小型シギ・チドリ類が大幅に減少している。調査参加者は5名だった。





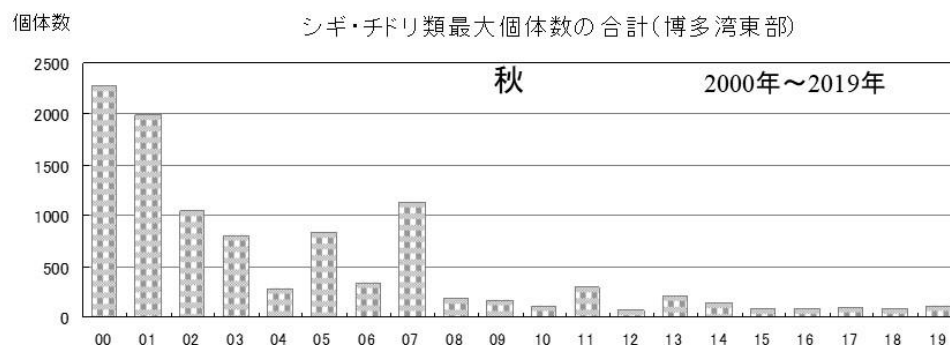
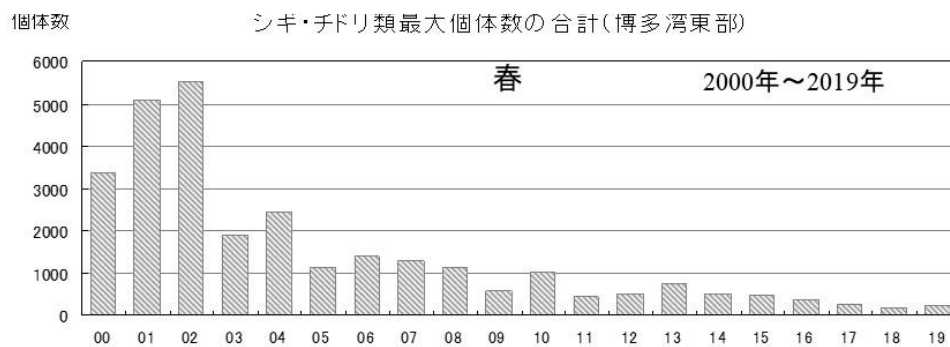
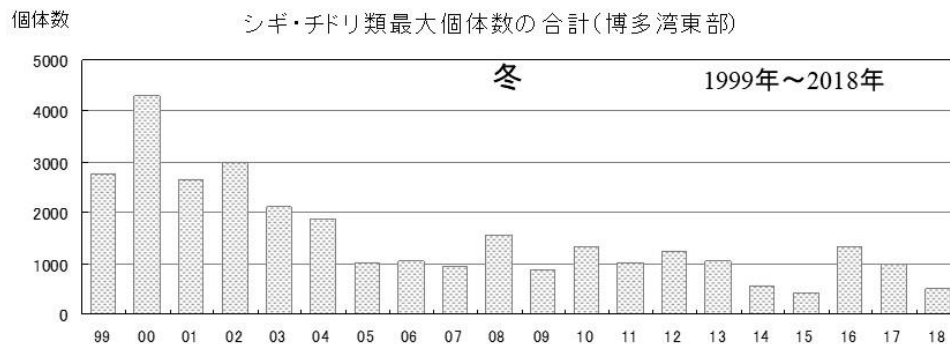
環境省モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ調査 (環境省・NPO 法人バードリサーチ)

冬期：2018年12月、2019年1～2月 今津と博多湾東部で各3回実施

春期：2019年4月～5月 今津と博多湾東部で各3回実施

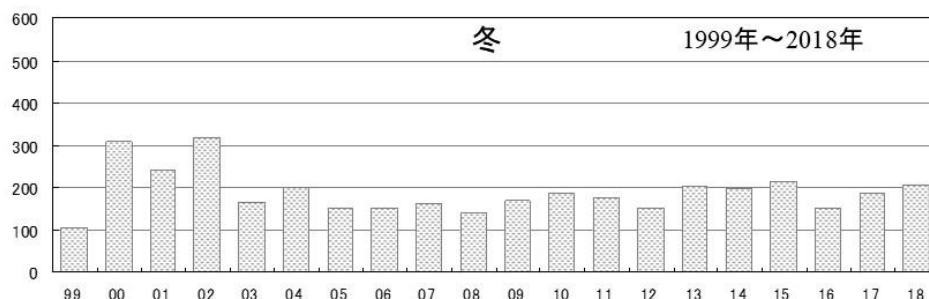
秋期：2019年8月～9月 今津と博多湾東部で各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2018年度冬期は2000年の4,300羽から**500羽**に減少し(昨年995羽より減少)、2019年春期は2002年の5,509羽から**226羽**に減少(昨年182羽)。2019年秋期は2000年の2,271羽から**114羽**に減少した(昨年91羽)。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大**27羽**(昨年16羽)、ヘラサギは最大**4羽**(昨年1羽)、ツクシガモ**247羽**(昨年309羽)、ズグロカモメ**0羽**(昨年0羽)を確認した。

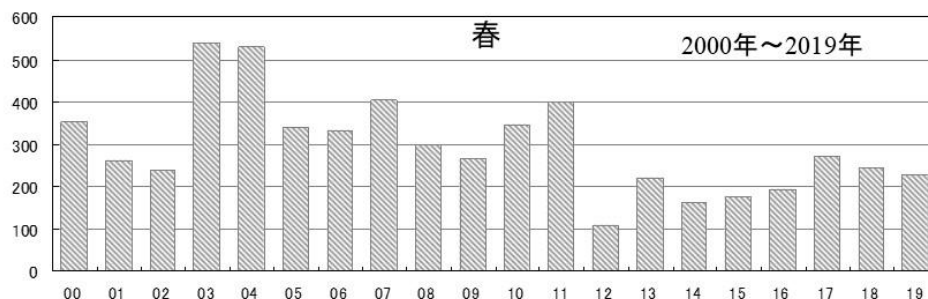


今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2018年度冬期は2002年の319羽から**208羽**に減少し（昨年188羽）、2019年春期は2003年の538羽から**226羽**に減少（昨年243羽）2019年秋期は2005年の450羽から**113羽**へ減少（昨年90羽）。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大**22羽**（昨年24羽）、ヘラサギは最大**9羽**（昨年10羽）、ツクシガモ**20羽**（昨年81羽）、ズグロカモメ**11羽**（昨年12羽）を確認した。

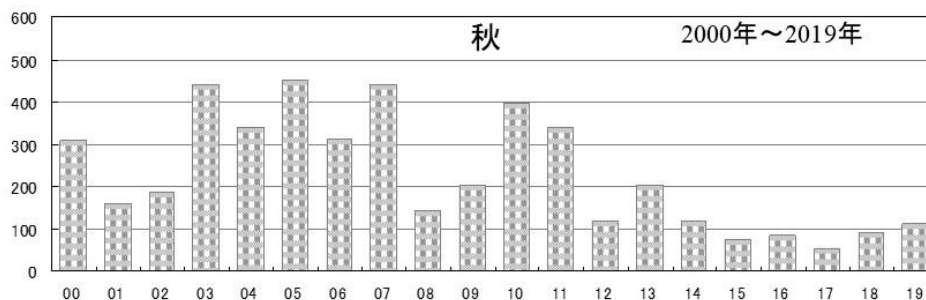
シギ・チドリ類最大個体数の合計(今津)



シギ・チドリ類最大個体数の合計(今津)



シギ・チドリ類最大個体数の合計(今津)



(※博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！)

この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。2018年冬期は、和白海域ではアオサが腐りかけて沿岸のアシに大量に絡みついていた。2017年冬期のシギ・チドリの個体数が少し増加したが、2018年春期以降はまた減少し、2019年度も減少したままだった。今津のシギ・チドリは減少状態である。博多湾東部に比べて今津は開発の影響が少ないと思われる。2019年の鳥類調査参加者は、毎回7名から10名、延べ74名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当者が高齢化し、調査員が足りない。今後も調査協力者を求めている。

※ミヤコドリは2019年9/25に3羽初認、10/9に7羽、10/13に15羽、10/26に20羽を観察し、越冬している。(昨年度25羽最大数記録) クロツラヘラサギは2019年10/9に5羽初認、10/18に8羽観察、

11/8に12羽観察。11/10に14羽観察。その後も1~7羽が越冬している。ツクシガモは11/8に2羽(初認)、12/1(40羽)、12/8(144羽)、12/16(208羽)観察。以降も越冬している。(2020年1/12には254羽)

3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

7. ラムサール条約登録をめざし、行政、議会、市民に向け活動に取り組む(目標年度を削除)

①3月13日、2018年に福岡市議会に提出した「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録について」の請願は審議未了となった。

②4月に行われた統一地方選挙において、福岡市東区の17名の市議会議員候補に公開アンケートを行い和白干潟保全について、ラムサール登録などの見解を尋ねたが、4名のみ回答があった。改選後の市議会にラムサール条約登録を推進する議員が引き続き当選したことは良かったが、和白干潟について知らない議員も増え、さらに理解ある議員を増やす取り組みが必要である。

③第31回和白干潟まつりは、雨天中止としたため、ラムサール宣言を出すことができなかった。市長からは事前にメッセージが届けられていたので、和白干潟通信133号に掲載した。

8. 福岡市の環境政策、公共事業に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める

(1) 福岡市の政策についての取り組み

①雁ノ巣ヘリポート問題につき、守る会は渡り鳥への影響について懸念のあることから環境影響調査の結果に注目し、公聴会など傍聴しその都度会員に報告してきた。今年度も住民から環境影響評価(住宅地騒音問題)についての請願や署名運動に協力し、報告会にも参加。引き続き3月供用開始後も事後調査をするとのことであり、注目していく。

②福岡市のエコパークゾーンである「雁ノ巣干潟」の一部が民有地で開発され、破壊されていたことが11月に分かったため、現地調査をした。アシの生えていた一部が根こそぎ掘削されていたため、管理者である福岡県に、希少生物保護の上で大変重要な湿地であることを伝え、原状回復させることを確認した。福岡市にもエコパークゾーンであることからどのように今後干潟を守っていくか問いただし、保全を求めていく。

(2) 福岡市との連携

①「和白干潟保全のつどい」の定期開催

福岡市港湾空港局環境対策課、自然保護団体などと連携し、「和白干潟保全のつどい」を月1回定期的に開催している。4月は、海の広場の倉庫の整理作業をした。7月には「第10回夏休み!和白干潟のいきものやハマボウを見る会」を予定したが、台風の接近で中止となった。9月、10月には「アオサのお掃除大作戦」を2回実施。第3回は台風の影響で中止。第1,2回計105名、アオサ約1,344kgを回収した。この時点ではアオサは比較的少なかったが、回収作戦以後12月に入ってもアオサが増えていた。12月には「バードウォッチングin和白干潟2019」を実施、好天に恵まれ、60名が参加した。鳥は23種観察した。

11月末、雁ノ巣干潟の一部が破壊されていることが報告され、問題を共有した。福岡県が海岸(干潟の部分)の原状回復を業者に指導し、年明けに実施される予定だが、貴重な生物のいることなどから他団体

とともに環境保全を申し入れることにしている。

②「エコパークゾーン水域利用連絡会議」2019年度は3月開催予定。

③「ラブアースクリーンアップ」

6月23日福岡市主催の「ラブアースクリーンアップ」の和白干潟では34名が参加し、73袋のごみを回収した。

9. 「山・川・海の流域会議」の他団体との流域連携について

1月の新春講演会は「楽友会の15年の歩み」と「和白干潟の自然と環境保護活動」の発表が行われたが、参加者が少なく、映写機も不調で残念だった。前年度秋に企画された自然観察会が雨天中止となっていたため、延期された6月「初夏の和白干潟（雁ノ巣海岸）観察会」は他団体会員の参加者がなく、守る会の会員のみの参加で終わり、和白海岸では少し異なった自然を紹介できなかったのは残念だった。10月の「唐原川お掃除し隊」は7年目を迎え、今年は実施時期を5、6月から秋に変更した。参加者が36名と少なく、ごみも少なかった。5月に九産大の学生と上流の掃除をしていたこと、秋には行事も多く、なかなか参加者を集めることが困難であった。2か月1回の定例会は他団体でも高齢化し、出席者が減少している。

10. スタッフの確保、活動への参加の強化について

ボランティアの募集に力を入れ、気軽にボランティア参加できるようHP、通信などで情報提供している。クリーン作戦のボランティアは増えているが、干潟まつりのボランティアは、クリーン作戦に来る人達などへチラシを作って呼び掛けたが確保できなかった。

活動への参加の強化については、曜日・時間設定、全般的な活動の見直しを検討する必要がある。

11. 広報の強化について

(1) 和白干潟通信・ホームページ・リーフレット類

①和白干潟通信は1月129号、4月130号を各5,100部、7月131号、10月132号を各5,000部発行した。干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成を受けて、ロータリー印刷（株）で印刷した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟付近の家庭、クリーン作戦、自然観察会参加者、ホテル、郵便局など。

②ホームページは、4名が分担し編集している。

③「クリーン作戦と自然観察のお知らせポスター」は、東区役所、公民館、郵便局、周辺大学（福工大、九産大、福岡女子大）、銀行、駅、老人福祉センター（東香園）、などにも掲示依頼している。

④リーフレット類は、「環境教育シリーズI」の改訂版を1万部印刷。

(2) その他

①イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加

イオン香椎浜店で、毎月11日にボランティア団体支援のイエローレシート投函を呼びかけるキャンペーンに参加し、12年目となった。レシートの買い上げ金額の1%相当額が団体に寄付され、4月には1年間のギフトカードを寄贈され、常に上位をキープしている。毎月1～3名が参加し、守る会の通信やイベントのチラシを手渡しして守る会の活動への賛同を呼びかけ、多くのレシートを取得し、活動資金獲得とともに活動のアピールにつながっている。

② 動画制作は、中心的担当者が多忙のため、制作は中断している。

12. 講演活動

(1) 2月26日香椎ふれあいサロンで山本代表が「和白干潟の今」の講演

(2) 11月1日海ごみ対策地域リーダー養成講座で和白干潟の現状について山本代表が報告

(3) 11月17日九州産業大学経済学部特別講義（宗像ゼミ主催）で、山本代表が「和白干潟の自然を守ろう」の講義

1 3. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・日本自然保護協会、西日本新聞東支局に年間スケジュール表を送付、クリーン作戦や和白干潟まつりなどのお知らせ掲載依頼。
- ・自然関係 4 誌に自然観察ガイド講習会、和白干潟まつりの案内記載を依頼。
- ・環境省 HP「kingfisher」にガイド講習会と和白干潟まつりのお知らせを送る。
- ・あすみん HP、メールマガジンにクリーン作戦、和白干潟まつり、ガイド講習会のボランティア募集の掲載を依頼。
- ・社会福祉協議会と NPO 福岡の依頼で「企業のボランティアプログラム集」に和白干潟を守る会のクリーン作戦を記入し送付。
- ・ガイド講習会、和白干潟まつりのチラシとポスターを作成、コミセンわじろ、郵便局、銀行に掲示依頼した。
- ・JAWAN 通信に山本代表が和白干潟報告の原稿を執筆。
- ・くすだひろこきりえ展「大好き！和白干潟」（レストラン花ももで 5/1～5/31）を開催し、パンフレットや通信を配布。
- ・和白干潟の自然観察ガイド講習会のお知らせを新聞 3 社に送る。
- ・和白干潟を守る会の「国土交通省大臣表彰」について新聞 4 社に取材依頼し、1 社が掲載した。
- ・第 31 回和白干潟まつりについて新聞 4 社、TV 局 4 社、JAWAN メールに案内。ミニコミ誌 4 社に情報提供、1 誌が掲載。
- ・チームエナセーブ未来プロジェクト観察会とクリーン作戦の取材を新聞 4 社に依頼。
- ・福岡市環境局に年間活動予定を送り、HP の干潟を守る会の情報を点検修正し、送付した。
- ・環境省シギ・チドリ調査サイト紹介 HP のアンケートに回答送付。HP に「探そう！全国の自然体験」に情報発信。
- ・マリンワールド「情報ひろば うみのたね」でリーフレット、通信を配置。
- ・日本河川協会の HP 活動団体紹介調査票に記入送付。

1 4. 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギ、ツクシガモの飛来について新聞各社に情報提供し、掲載された。
- ・「福岡のトリセツ」という本で、鳥の写真提供。

1 5. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

(1) 日本野鳥の会福岡支部

- ・和白海岸定例探鳥会 毎月 1 回「和白海岸探鳥会」で協力している。
- ・リスクマネジメントの学習会に 2 名参加。

(2) JAWAN、JEAN

①JAWAN

- ・3 月 30 日～4 月 1 日沖縄：沖縄県石垣市で開催された 2019 年度 JAWAN 総会に山本代表が出席。
- ・4 月 27 日：「干潟・湿地を守る日 2019」参加。クリーン作戦と併せて実施し、2019 年和白干潟宣言を出した。

- ②JEAN「国際ビーチクリーンアップ（春・秋）」に参加した。4 月はクリーン作戦と併せて実施。9 月はクリーン作戦と併せ、漂着ゴミ調査を九産大宗像ゼミとともにいった。

(3) 日本自然保護協会

9月23日「アリの見分け方研修会」を守る会との共催で実施した。参加者は13名で守る会会員のほか他県からの参加もあった。ヒアリの知識を持つ大勢の市民を増やしたいとの趣旨で、ヒアリの侵入はその後各地で広がっており、学んだ意義は大きかった。

(4) グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部

第31回和白干潟まつりを共催するため、実行委員会での協議、配達トラック、店舗での宣伝、出店募集、出店なども準備されたが、雨で中止となった。

(5) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」

HPなどへの情報提供を継続し、ボランティア登録した学生などがクリーン作戦に参加している。

(6) その他

- ・福岡アジア文化賞大賞を受賞したフィリピンの社会学者から依頼され、一行を和白干潟で案内。
- ・環境保全活動団体交流会参加（2名）
- ・地域づくりネットワーク協議会福岡ブロック報告会参加（1名）
- ・海ごみ対策地域リーダー養成講座講師中井さんを和白干潟で案内。
- ・横浜市立大学院都市社会文化研究科のアンケート調査（地域遺産の管理・活用に係る主体に関する）に協力。

16. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

(1) 定例会議・総会

原則第4土曜日に守る会の事務所で「定例会議」を11回開催。2月は「総会」を開催し、同日に臨時定例会議を開催した。総会で1年間の活動のまとめ、会計報告、新年度活動方針、予算等を決めた。今年の総会では会則の変更はなかったが、「会の独立性・中立性について、資金調達について」の内規を定めた。

定例会議では会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は全員で意見交換して決定した。また、必要に応じて役員会を開催した。

2月総会を機に活動を担うスタッフとしての活動から退かれた方、病気高齢、多忙などで参加できない会員が増え、定例会議出席者は各回10～15名、平均約12名が出席した。若い人の参加を促すため、干潟通信での予告期間を経て、定例会議の開催時間を7月から、若い人には出席しにくい午前10時30分から、午後12時30分から14時30分までに変更した。しかし、新規会員の参加はなく、それまで参加できていた人が参加できなくなった、時間に追われ、議題が十分検討できない、15時からのクリーン作戦の準備も遅れがち等の問題も生じており、定例会議開始時間の見直しを再度行う予定であり試行錯誤の年であった。

(2) 事務局体制と役割分担

会の活動にあたって、定例会議に出席している事務局メンバーはできるだけ様々な活動を分担することとしているが、人数が減ったため役割分担が固定化している。また、通信発送会は定例会議に出席されない会員も参加されていたが、高齢化などのため、参加者、手配り人員が減り、郵送も増え、時間的負担も大きくなった。望年会は日程や時間調整が困難となり実施せず、従来通り分担した大掃除後の茶話会だけを行ったが、参加者は少なかった。

(3) 助成

イオン環境財団から助成金を受けた。

(4) 寄付

- ①イオン九州（株）から「幸せの黄色いレシートキャンペーン」でギフトカードを寄付いただいた。
- ② あいおいニッセイ同和損保 KK 福岡支店より寄付いただいた。
- ③ 和白東レインボークラブ連合会より寄付いただいた。

④ 国連生物多様性の10年日本委員会推薦子ども向け図書「生物多様性の本箱」103冊の寄贈を受けた。

寄贈図書を「和白ひがた文庫」とし、活用する。

⑤ 会員や一般市民、観察会、干潟まつり等でカンパをいただいた。

(5) 応募と受賞

- ・6月「2019年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」応募
- ・7月「エクセレントNPO大賞2019」応募
- ・7月 海の日記念式典・海事関係功労者（長年の海岸清掃活動）として「国土交通大臣表彰」を受けた
- ・9月「第21回日本水大賞」応募

(6) 2019年度末の新規会員

個人：5名、団体：1団体

(7) 2019年度末会員数（新規会員含む）

個人会員：233名 団体会員：16団体

17. パンフレット類の在庫（2020年1月現在）

- ・和白干潟を守る会リーフレット 2,037
- ・和白干潟の自然案内（和文） 4,087
- ・環境教育シリーズⅠ（環境教育プログラム） 8,430
- ・環境教育シリーズⅡ（水鳥、底生生物、植物図鑑） 3,856
- ・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表 毎年印刷
- ・和白干潟を守る会封筒 5,000
- ・ラムサール条約と和白干潟 700
- ・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会20年のあゆみ 10
- ・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会30年の歩み 1,033
- ・四季の和白干潟の自然Ⅰ 5,196
- ・四季の和白干潟の自然Ⅱ 7,700
- ・和白干潟の自然案内（英文） 525
- ・環境教育シリーズⅡ（英文） 460
- ・環境教育シリーズⅡ（韓文） 78

18. その他

- ・海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力（毎月1回） 2～3名